

ブランドマグロ「三陸塩竈ひがしもの」の水揚げが最盛期!

9月13日から季節限定のメバチマグロ「三陸塩竈ひがしもの」の販売が始まりました。現在は「近海かつお・まぐろはえなわ漁業」の水揚げ最盛期を迎え、本格的な出荷が行われています。

平成15年度からブランド化に取り組んでいる「三陸塩竈ひがしもの」は、塩釜市魚市場に水揚げされた生鮮メバチマグロのうち「鮮度」「色つや」「脂ののり」「うまみ」を兼ね備え、魚市場の買受人の目になつた厳選されたものです。塩釜水産物仲卸市場の取扱認定業者から購入できるほか、塩竈市内の寿司店等で味わえます。



塩釜市魚市場のメバチマグロの水揚げ状況



「三陸塩竈ひがしもの」の切り身

塩竈市の復興と地域活性化の牽引役として、新たな販路拡大と全国ブランドに向けて知名度向上を図るため、昨年からは仙台や築地等、消費地の市場へのお荷・PRも積極的に行っています。

ぜひ塩釜にお越しいただき、季節限定品である脂ののった旬の味を堪能してください。



HIGASHIMONO
「三陸塩竈ひがしもの」マーク

※「三陸塩竈ひがしもの」に関する情報は、 <http://www.shiogama.or.jp>

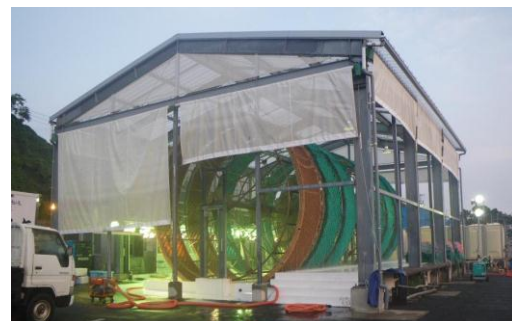
ノリ養殖始まる! ～ 11月以降には「みちのく寒流のり」の出荷開始予定 ～

宮城の代表的な養殖の一つであるノリ養殖がスタートしました。昨シーズン、懸命な復旧作業により平年比2割まで生産を回復させたノリ養殖ですが、今年はいよいよ本格復旧に向けたステップアップの年になります。

8月下旬から9月上旬には、ノリ網に種(孢子)を付ける「陸上採苗」の作業が行われ、今年使用する種網を確保しました。また、9月下旬からは、松島湾で野外採苗と育苗のための種網の張り込み作業が行われ、震災前の規模には及びませんが、湾内に秋の風物詩とも言える色とりどりのノリ網が展開されています。



松島湾に張り込まれたノリ網



陸上採苗風景・水車にノリ網を巻きつけて回転させながら、水槽の中の海苔孢子を網に附着させる

10月以降は水温も順調に低下し、健全な種苗が育っており、今後、この種網が仙台湾に張り出され、本養殖が開始されれば、11月以降には、香り豊かな「みちのく寒流のり」の出荷が開始される予定です。

ぜひ、美味しいノリを召し上がっていただき、宮城のノリ養殖生産者の復興への想いを感じてください。

風評に負けない！

～ 県産きのこを使った「秋のきのこ弁当」を知事が試食 ～

県内のきのこ生産者と(株)日本レストランエンタプライズの関係者が知事を訪ね、県産きのこを使った「秋の吹き寄せ弁当」と「栗めし」の2種類の駅弁発売を報告し、知事と一緒に試食しました。

この駅弁は、JR仙台駅において秋の期間限定で発売されており、今年で3年目になります。

使用されているきのこは原木しいたけなどで、いずれも屋内の生産施設で栽培されており、放射性物質検査の結果、安全性が確認されていますが、風評などにより、生産量・販売量ともに減少しています。

そのような中でも(株)日本レストランエンタプライズは、「風評被害に苦しむ生産者を支援するために、県産きのこを何としても使いたい」との思いから、今年も駅弁の発売を実現させました。

村井知事からは、「美味しかった。きのこ生産者の皆さんもくじけずに頑張ってください」とメッセージが贈られました。

この駅弁は、JR仙台駅で11月下旬まで販売されています。ぜひ、皆様もきのこたっぷりの秋の味覚を味わってみてください。



知事を囲んで記念撮影

亘理町の水田農業を復活！

～ 震災後、町内初の水稲生産組織が活動を開始 ～

亘理町では、震災後、新たに設立された水稲生産組織として「鳥屋崎農場集団組合」（代表：片岡悟組合長、組合員27名）が活動を開始しました。町内でも海岸に近い当地区では、施設や機械が流失するなど甚大な被害があり、経営再開は厳しい状況でしたが、国の復興交付金を活用して、穀物乾燥調製施設や田植機、トラクター、コンバイン等の機械を新たに導入し、今年から水稲生産を行っています。

今年の組合の水稲作付面積は21haで、田植えは5月11日から始まりました。田植後の生育は概ね順調で、出穂期以降の高温・多照により登熟（※）も順調に進み、震災後初めての収穫となる新米の出来も上々のようです。

片岡組合長からは、「待ちに待った水稲の収穫ができました。施設や機械を導入し、組合員27名が一致団結して営農再開ができたことを、とても嬉しく思います。交付金の導入にあたっては、役場やJA、亘理農業改良普及センター等関係機関のご支援をいただき、感謝しています」とコメントをいただきました。

亘理町では被災した水田の一部しか復旧しておらず、震災前の生産量に戻るまでにはまだ時間を要します。亘理農業改良普及センターでは、今後も被災者の方々の営農再開を支援するとともに、各種事業の活用や技術支援を通じて、地域農業の担い手の方々の支援していきます。

※ 登熟：穀類などが出穂のあと成熟していくこと



10月に完成したばかりの穀物乾燥調製施設



運搬作業をする組合の皆さん

「第14回あさひな農協繁殖牛共進会」が3年ぶりに開催！

あさひな農業協同組合、あさひな和牛改良組合の主催による「第14回あさひな農協繁殖牛共進会（※1）」が平成24年8月31日に美里町の「みやぎ総合家畜市場」で開催されました。一昨年は宮崎で発生した口蹄疫、昨年は東日本大震災と福島第一原子力発電所事故に伴う放射能汚染問題のために開催が中止となり、今回は3年ぶりの開催になりました。あさひな和牛改良組合設立後、初めての共進会ということもあり、32頭が出品されました。

体積、均称（※2）に優れた牛が多く、慎重な審査の結果、1区（未經（※3）12～17ヶ月未満）では大衡村の石川日出男氏、2区（未經17～24ヶ月未満）では富谷町の遠藤久光氏、3区（経産（※4）5歳未満）では大衡村の早坂勝伸氏、4区（経産5歳以上）では富谷町の遠藤久光氏の出品牛がそれぞれ最優秀賞に選ばれました。



共進会審査風景



褒賞授与式

褒賞授与式では、あさひな和牛改良組合の石川日出男組合長が、「5年後の全国和牛能力共進会宮城大会で代表牛に選抜されるよう組合員一丸となって取り組んでいきたい」と挨拶されていました。

- ※1 共進会：互いに出品物の優劣を競い合い、審査、批評、表彰する
- ※2 均称：月齢に応じた体全体と各部のバランスや形などを審査
- ※3 未經：出産を経験していない
- ※4 経産：出産を経験している

新しい農業を創っていきます！ 七ヶ浜生産組合

七ヶ浜町では、津波により農地のおよそ9割が被災し、震災後2シーズン目となる今年も水稲等の作付ができない状況です。時間の経過と共に営農意欲の低下が懸念される中、今年度、比較的被害程度の軽い農地を重点的に復旧し、「七ヶ浜生産組合」（代表：佐藤太郎氏、組合員9名）が4.8haの農地で大豆栽培を再開させました。

大豆は11月に収穫が予定されており、町内の豆腐加工施設に供給されます。



ほ場で説明を受ける知事



生産組合の方々との意見交換

この大豆栽培ほ場を村井知事が訪問し、生産組合の方々と意見交換を行いました。周辺ではまだ復旧工事が行われている中、青々とした大豆畑を見て、村井知事からは「皆さんの努力に敬意を表します。どうぞ営農意欲を失わずに前向きに進んでください」と激励があり、組合長からは「ガレキに埋もれた農地を見たときはがくぜんとしましたが、多くの方々に支援していただき、ここまで来れました。今後は新しい七ヶ浜の農業を創っていきます」と力強い言葉がありました。

七ヶ浜生産組合は、町の中心的な担い手として期待されており、本格的な営農再開に向けて、関係機関と一丸となり準備を進めています。

海岸マツの後継樹の植栽が始まる！

当ニュース Vol.14 でもお伝えした海岸マツの後継樹の植栽が、いよいよ始まりました。

東日本大震災により職を失った方々の力を借りて、今年3月から5月に被災地の海岸林で奇跡的に生存していたクロマツの稚樹を掘り取り、その稚樹は、現在、蔵王町の苗畑で育てられています。海水に長時間つかると過酷な状況にさらされた稚樹だったこともあり、枯れてしまったものも多数ありましたが、現在、およそ10万本の稚樹が緑の葉を広げ成長しています。なかには植栽に適した大きさに育った苗木（25cm以上）も見られるようになってきました。



植栽用に出荷した苗木



植えた苗木の様子「元気に育てほしい」

そこで、海岸林再生に向けた後継樹植栽の第一弾として、千本を10月初めに七ヶ浜町湊浜にある県の海岸林（潮害防備保安林）跡地に植栽しました。

苗畑から再び塩分の多い海岸域に戻されたことで、今後の生育が順調に進むかどうか心配な点もありますが、立派な海岸林が再び蘇るよう暖かく見守っていきたいと思います。

□■ おすすめイベント情報

仙臺鍋まつり

日時：11月6日(火)～7日(水) 午前11時～午後2時(売切れ次第終了)

場所：仙台市勾当台公園市民広場

内容：本年も、復興への願いを込めて、仙台地域の市町村が、それぞれの特産品を使った名物鍋・創作鍋を販売します。

名取市の「あんこう鍋」や亘理町の「鮭のアラ汁」をはじめ、七ヶ浜町の「ボッケ鍋」や、塩竈市の「藻塩入り塩竈汁」、利府町の手作り味噌を使った「かき鍋」など、種類は様々です。

なお、今年は岩沼市の「岩沼とんちゃん もつ煮込み」が初参加します。



昨年度の販売の様子



昨年度の利府町の「かき鍋」

小ぶりな器で価格も100円から200円と手頃ですので、ぜひ色々な鍋を食べ比べてみてください。

皆さまのご来場をお待ちしております。

問 宮城県仙台地方振興事務所地方振興部 Tel:022-275-9140

★ 読者の皆さまからのたくさんの明るい情報をお待ちしております！

お問い合わせ先)宮城県仙台地方振興事務所
地方振興部(担当:齊藤, 鶴飼)

(HP) <http://www.pref.miyagi.jp/sdsgsin/> (E-Mail) sdsinbk2@pref.miyagi.jp (TEL) 022-275-9140